



# 日本女医会誌

復刊第 193 号  
2008 年 1 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## ejnet 第 3 回シンポジウムに参加して

東女医学内支部 橋本葉子

ejnet とは内閣府認証特定非営利活動法人「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会」のことで、2005 年に瀧野敏子先生を代表理事として設立され、活発に活動しております。私は ejnet の事業の 1 つである「働きやすい病院評価」認証事業の外部評価委員の一人になっております。

毎年シンポジウムを開いておりますが、第 1 回は 2005 年 5 月 29 日に「女性医師の働く環境の現状と課題」について、大阪の北野病院で、第 2 回は 2006 年 6 月 4 日に「急増する女性医師の未来像～さらなる活躍への支援システム～」について、東京女子医科大学弥生記念講堂で行われました。第 3 回は 2007 年 12 月 2 日に「医師の理想の働き方とは・韓国と日本と比較して」と題して、虎ノ門パストラルホテルで行われました。小田泰子会長も参加され、「天は自ら助くる者を助く (God helps those who help themselves)」というメッセージを述べられました。

基調講演は、韓国延世大学解剖学教授の「Kyung Ah Park」先生が「韓国医師のワークライフバランス

とキャリア形成」について話され、その後「日韓の医師の働き方事情 (キャリア形成とワークライフバランス)」について、パネルディスカッションが行われました。司会は代表理事の瀧野先生、パネリストは Park 先生、小澤邦寿先生 (群馬県衛生環境研究所所長)、谷藤千暁先生 (順天堂大学腎臓内科)、福島若葉先生 (大阪市大公衆衛生学助教)、南 砂先生 (読売新聞編集委員・医師) の 5 名でした。谷藤先生と福島先生は共に数人のお子様を持っておられる若い先生で、現役として谷藤先生は臨床で、福島先生は基礎医学で頑張っておられます。

私は総括を仰せつかりました。今秋から議員として参加している男女共同参画推進連携会議 (えがりてネットワーク) の新規事業が「ワーク・ライフ・バランス推進の活動事業の検討と実施」であり、「仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) に関する専門調査会」の報告書が配布されましたので、その一部を紹介し、更に、東京女子医科大学で昨年取り組んでいる「女性研究者支援事業」と「女性医師再

日本女医会誌・復刊第 193 号 13

2008 年 1 月 25 日

教育センター」の紹介をさせていただきました。また、小田会長も紹介されましたが、私も 12 月 9 日に行われた日本女医会主催の「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー」の開催を紹介いたしました。

女性医師、女子医学生のみならず、他職種の女性や男性の参加者も比較的多かったのが印象的でした。ま

た、今回は同時通訳を日本脳神経外科同時通訳団のお二人にお願いいたしました。ejnet の副代表理事「藤巻わかえ」先生のご主人もそのお一人でした。このような通訳団があることは驚きでした。日本の学会組織中唯一のユニークな存在です。関連学会や他分野の学会の同時通訳の依頼も引き受けておられるとのことでした。